三島壺　w230×d230×h280㎜

森田　勇　Morita Isamu

私がこの仕事を始めたのは、陶仕事の自由さや釉薬の妙に魅力を感じたからです。自分で考え形を作り、釉薬を配合し、窯での焼き上げなど、出来上がるまで気の抜けない場が多いですが、自己完結の達成感や満足感が得られます。縁あって北海道から秋田に移った当初は平凡な器を作っていましたが、上新城の須恵器を焼いたと思われる土を探し当て、登窯を築き、土に合う表現は粉引や刷毛目・焼き〆と気付きました。以後それらは当窯の主力商品となっています。

1948年生。30代から焼き物を始め、北海道旭川市の千尋窯にて修行。その後、秋田市に移り、現在に至る。